



## それっておもしろいの？（三角ロジックと記憶のアップデート）

辻 多聞

おもしろい発案、それは本当に「おもしろい」のでしょうか。変な問いかけをしていると思われるでしょうが、実はここが非常に重要なのです。

「おもしろい」と判断する人についてそれぞれ考えてみましょう。

第一にあるのが、自分自身です。自分自身に関しては、自分で「おもしろい」と思っているのです。その案は「おもしろい」ということになります。ただし、この判断は現時点でのものです。先月の内容にて少し触れましたが、人の脳には新たな情報がどんどん入ってきます。新しい情報は刺激が強く、一方で古い情報は刺激が弱いので、古い情報が端に追いやられていくこととなります。つまり今現在「おもしろい」と感じている内容であったとしても、新しい情報の刺激に負けて脳の端に追いやられる可能性は十分にあるのです。例えば、趣味として始めたばかりの「釣り」は、今現在は本当に楽しくて仕方がないでしょう。しかし1カ月後はどうでしょうか。もしかしたら別の趣味、例えば「ジョギング」に興味が移ってしまっているかもしれません。そして半年後には完全に「釣り」には興味がなくなっている（「釣り」がおもしろくなくなっている）可能性も十分にあるわけです。

第二にあるのが、他者です。他者に「おもしろい」と思ってもらうのには結構「手間」がかかります。簡単に案だけを述べて、「ね、おもしろいアイデアと思わない？」と同意を求めたところで、大抵の人は「そうかもね」くらいの素っ気ない返事をしてしまうのではないのでしょうか。よく考えるとこれは当たり前の話で、自分自身が「おもしろい」と判断した経緯には、自身の脳内にある様々なデータや経験がその案と複雑につながっているのです。その結論だけのような言葉を言われたところで、それを聞いた人にはそうしたデータや経験がないため「おもしろい」という感情は湧き出るはずありません。では自身の脳内にある様々なデータや経験すべてを人に伝えれば良いということになりますが、これはまずもって不可能、なぜならばそのデータ量は多すぎて、また自身でも整理がつかないほど複雑に絡みあっているからです。脳内にある様々なデータや経験を整理して、端的にまとめ、人に伝える方法（まとめる方法）が「三角ロジック」というものです。三角ロジックは、「主張」、「データ」、「論拠」で構成されます。「主張」は話の結論、この例ならば「私の案はおもしろい」ということとなります。「データ」はその言葉通りで主張を裏付ける統計的な数値や事実というものです。「自身の経験」はここに含まれます。最後の「論拠」は一般的な原理、原則というものです。例の「おもしろい」という主張に対する「論拠」は、新聞や書籍に記載されていた内容が該当することになります。これら以外に、その案の位置づけ、そうしたものへの他者の取り組み状況（次回以降に記載します）なども「データ」や「論拠」となります。三角ロジックを用いた説明方法は、「私は（主張）と感ず、なぜならば（データ）があるからです、また一般的に＜私以外にも＞（論拠）のように感じている人もいるからです」のように、「主張」を最初に述べてその理由として「データ」や「論拠」を引用します。最後にもう一度「主張」を言い換えて説明を終わる方がより効果的です。三角ロジックを用いれば、少なくともあなたが導いた「主張」に聞き手は納得してくれるはず（共感してくれるかは、次のステップです）。ちなみに先に「手間」と記しましたが、コツさえつかめればそれほど「手間」ではなくなります。

なぜ他者に「おもしろい」と思ってもらう必要があるのでしょうか。それは「承認欲求」です。人は誰かから認めてもらいたいと思う生き物です。自分のアイデアを他者におもしろいと思ってもらえたことで嬉しくなり、そのアイデアを実施する上でのモチベーションとなります。また、他者に知ってもらうことで「やらなければならない」という責任感も出るでしょう。あなたのアイデアを聞いた他者からは時折「この前のアイデアはどうなった？計画は進んでる？」といった問いかけもあるかもしれません。こうしたものは脳に及ぼす新しい刺激です。弱くなった古い記憶を励起し、あなた自身が感じた「おもしろい」という感情をフレッシュなものしてくれます。つまり、あなた自身が今現在感じている「おもしろい」という感情のアップデートということ。他者に「おもしろい」と感じてもらうことが、1カ月後、半年後、はたまた1年後に自分自身が「おもしろい」と感じておくために必要なことなのです。

「おもしろい」がいつまでも「おもしろい」であるために、大学生活のなかでたくさんの友人と楽しく会話してもらいたく思います。このコロナ禍です所以对面による会話はあまり進まないでしょうが、便利なスマホがありますから上手く活用してください。ただいつの日か学食をはじめとした学内の至るところから皆さんの楽し気な大きな声と笑い声が聞こえてくることを切に願っております。

**おもしろプロジェクトに関するお問い合わせは  
自主活動ルームにて受け付けています**